

札幌市放課後子どもプラン(案)に対する ご意見の概要と札幌市の考え方

札幌市では、平成 19 年(2007 年)4 月に国が創設した「放課後子どもプラン」の基本的な考え方に基づき、「さっぽろ子ども未来プラン」や「第 2 次札幌新まちづくり計画」にある関連施策や事業などについて、今後の札幌市における子どもたちの放課後などの居場所づくりの視点から体系化し、総合的な放課後対策を推進することを目的とした「札幌市放課後子どもプラン」を策定することといたしました。

プランを策定するに当たり、市民の皆様からたくさんのご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

このたび、お寄せいただいたご意見の概要と、それに対する札幌市の考え方をご報告いたします。

なお、皆様からのご意見は、趣旨を変更しない程度に取りまとめ、要約しておりますことをご了承願います。

平成 20 年(2008 年)8 月
札幌市
札幌市教育委員会

市政等資料番号
01-A01-08-598

.....

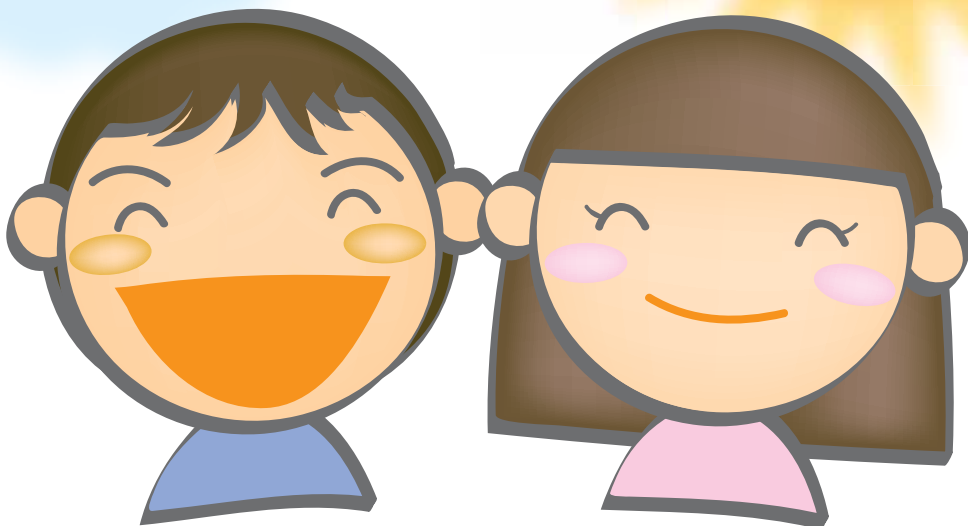
【 目 次 】

I 「札幌市放課後子どもプラン」概要	P 1
II 意見募集実施の概要	P 4
III 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方	P 6
1 プラン(案)全般に関する意見	P 6
2 児童会館・ミニ児童会館児童クラブに関する意見	P 11
3 民間児童育成会に関する意見	P 17
4 1～3以外の意見	P 21

.....

すべての**子ども**たちが
安全で**安心**に過ごすことができる
放課後の**居場所**づくりを進めるために

～ 札幌市放課後子どもプラン～



1. プランの策定にあたって

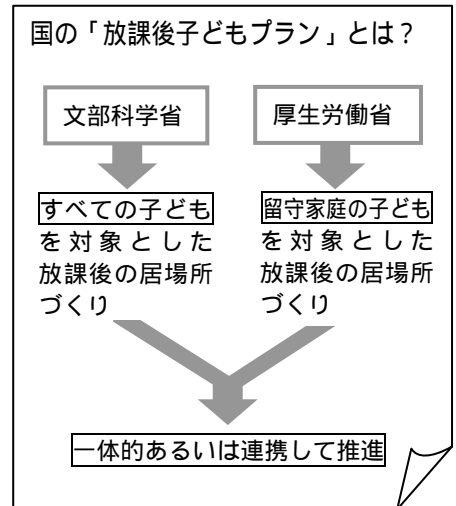
「札幌市放課後子どもプラン」の策定背景

国の「放課後子どもプラン」の創設や、子どもと子育て家庭への支援策として札幌市で策定済みの「さっぽろ子ども未来プラン」における放課後の子どもの健全育成に関する取組が計画を上回って施策を実施していること、平成19年12月に策定した「第2次札幌新まちづくり計画」において未来を担う子どもが健やかに育つ環境を充実するための事業を推進することとしていることを踏まえ、

「さっぽろ子ども未来プラン」や「第2次札幌新まちづくり計画」にある関連施策や事業などについて、今後の札幌市における子どもたちの放課後などの居場所づくりの視点から体系化し、総合的な放課後対策を推進します。

プランの期間・・・平成20年度から平成22年度までの3年間

プランの対象・・・小学校の子どもが、児童会館やミニ児童会館などで、放課後に継続して活動するための事業



2. 札幌市の現状と課題

札幌市の小学生の子どもの数は昭和58年度をピークに減少し、出生率も低下傾向が続いています。

総合的な放課後対策の実施状況

児童会館事業

高校生以下の子どものための児童会館を中学校区単位に設置しています。児童会館では、留守家庭の子どもに一定の配慮を行いつつ、留守家庭の子どもも一般利用の子どもも分け隔てなく、積極的な交流を通して健全育成を図っています。

ミニ児童会館事業

児童会館が利用しづらい地域の小学校の余裕教室などを活用して、ミニ児童会館を整備しています。ミニ児童会館では、当該小学校の子どもを対象に、児童会館と同様の方針で子どもたちの健全育成を図っています。

その他の放課後対策の実施状況

地域活動推進事業

学校・家庭・地域の連携、協力を推進しており、地域ぐるみでの子どもの健全育成に向けた取組を行っています。

民間児童育成会への助成

留守家庭の子どもの居場所の一つとして、地域の児童育成関係者や父母などで構成された育成委員会が実施している民間の児童育成会に、一定の要件を満たした場合に助成金を交付しています。

その他の活動

自然体験や、芸術・文化体験などの遊びや学習を通して、子どもたちの発達段階に応じた多様な体験機会を提供しています。

* * 総合的な放課後対策における課題 * *

居場所がない小学校区への対応

児童会館やミニ児童会館がない小学校区などに、児童会館までの距離や、子どもの数などを勘案しながら、放課後の居場所を確保する必要があります。

ミニ児童会館の整備の促進

児童数が多い小学校には余裕教室がないこともあるため、近くに児童会館がないなど特に必要性が高い小学校には余裕教室の活用以外の整備手法を検討する必要があります。

児童クラブの大規模化の解消

児童会館で留守家庭の子どもを対象として開設している児童クラブの登録児童数の増加に伴い、児童会館によっては児童クラブが大規模化しているので、これを解消する必要があります。

学校や地域との連携の促進

学校や地域の人たちにも児童会館などの存在や役割を知ってもらい、学校や地域とともに、子どもたちの健全育成に関する取組を進めていく必要があります。

学習機会を提供する取組の充実

児童会館などでは、遊びを中心に健全育成を図っていますが、子どもが人間性をより豊かに育むためには、学びにも着目し、学ぶ意欲がある子どもへの対応を充実する必要があります。

3. プランの概要

基本的な考え方

札幌市では児童会館やミニ児童会館において既に総合的な放課後対策を実践しています。一方では、国のほうが、より充実した取組を考え方として盛り込んでいるところもあります。

よって、児童会館やミニ児童会館での事業を基本として、小学校区を単位として放課後などの居場所を増やしていくとともに、従来の事業内容の充実を図っていくこととします。

プランの目標及び体系と具体的な内容

基本理念

「すべての子どもたちが安全で安心して過ごすことができる放課後の居場所づくり」

基本目標 1

小学校区ごとに放課後の居場所を確保する取組

児童会館

高校生までのすべての子どもの施設として、引き続き事業を実施していきます。

留守家庭の子どもの居場所確保

ミニ児童会館の整備を通して児童クラブの設置を進めます。

ミニ児童会館の整備促進

余裕教室の発生状況を見極めながら、整備が急がれる小学校から優先的に整備していきます。また、特に優先度が高いが余裕教室がない場合には、増築や別棟建設などの整備手法も取り入れていきます。

地域活動推進事業の活用

児童会館やミニ児童会館、モデル事業の実施が困難な小学校において、子どもたちの放課後の居場所づくりの一つとしての事業展開に配慮します。

モデル事業の実施

ミニ児童会館整備の優先順位が低い藤の沢小学校をモデルに、留守家庭ではない子どもを対象とした事業を実施します。

その他の活動の推進

次代を担う子どもたちが健やかに育むための様々な事業などについて、札幌市で策定している各種計画に基づき積極的に推進していきます。

基本目標 2

児童会館などの事業内容をより良くするための取組

学校・地域との連携強化

学校や地域との連携組織への参加などを通して、子どもたちが地域で健やかに育つための居場所づくりを推進するとともに、子どもたち自身の地域への愛着を深める取組を実施します。

学習支援の充実

学習したいと思う子どもがより意欲的に取り組むことができるような環境づくりを進めるとともに、遊びの要素を取り入れた学びの提供を行います。

4. プランの推進に向けて

関係部局の連携

子どもたちの放課後などの居場所づくりを円滑に進めるため、教育委員会と子ども未来局による連携プロジェクトが中心となつて、このプランを推進していきます。

関係者との協力体制とプランの点検

「さっぽろ子ども未来プラン」の点検などを行っている札幌市次世代育成支援対策推進協議会が、このプランの推進委員会を兼ねることで、次代を担う子どもを総合的に育成する広い視点での意見聴取及び協力を行います。また、プランの実施状況についても、この推進委員会が点検を行い、各種事業の円滑な実施に努めていきます。

Ⅱ 意見募集実施の概要

1 意見募集期間

平成20年3月31日(月)から平成20年4月30日(水)まで

2 提出された意見総数

236件

●年齢構成

区 分	提出件数(件)	構成比(%)
小学生	6	2.5
20歳代	11	4.7
30歳代	91	38.6
40歳代	75	31.8
50歳代	18	7.6
60歳以上	10	4.2
不 明	25	10.6
合 計	236	100.0

3 提出意見の内訳

区 分	意見件数(件)	構成比(%)
1 プラン(案)全般に関する意見	73	30.9
2 児童会館・ミニ児童会館児童クラブに関する意見	102	43.2
3 民間児童育成会に関する意見	55	23.3
4 1～3以外の意見	6	2.6
合 計	236	100.0

4 主な意見とそれに対する札幌市の考え方

意見の概要	札幌市の考え方
1 プラン(案)全般に関する意見	
<p>留守家庭児童と一般利用の子を一体化すること自体が差別ではないか。放課後児童クラブが既にある地域には、ミニ児童会館整備を急ぐべきではない。</p> <p>共同学童保育所をつぶすようなミニ児童会館開設には疑問を持つ。</p> <p>ただ児童会館やミニ児童会館を増やせば良いのか。空間を作るためだけにお金は使わないでほしい。</p> <p>市内には、児童会館やミニ児童会館がまだまだ必要、プランを大いに進めるべき。</p> <p>放課後の居場所があることは、働く親にとってありがたい。学校内・徒歩圏内にあることも良いことだ。</p> <p>プラン(案)は留守家庭でない子どもも対象にしておりすばらしい。是非すべての案を実施してもらいたい。</p> <p>プランの主旨に賛同する。留守家庭では、帰宅後に学習させるのは難しく、少しでも学習時間を持たせたい。</p>	<p>本市の総合的な放課後対策では、児童クラブの子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としている。</p> <p>子どもたちの安全で安心な放課後の居場所として、ミニ児童会館は非常に有効と考えており、すべての児童の放課後の居場所を考える上で、民間児童育成会(学童保育所)が既にある地域にも、必要性が高いと判断した場合は、ミニ児童会館を整備する。</p> <p>今後益々、児童会館が子どもたちにとって居心地の良い場となるよう、学校や家庭、地域との連携を図りながら、学習支援の充実も含め事業の推進に努める。</p>
2 児童会館・ミニ児童会館児童クラブに関する意見	
<p>放課後安心して預けられる施設があり感謝している。今後も安全に過ごせる児童会館であることを望む。</p> <p>児童会館が利用しづらい地域にもミニ児童会館が整備されると良いと思う。</p> <p>児童会館では、留守家庭の子と一般来館の子が交流でき、有意義に過ごす場として大切な居場所である。</p> <p>児童クラブの対象学年の拡大・時間延長を望む。</p>	<p>児童会館やミニ児童会館のない校区、児童会館があっても遠くて利用しづらい校区について、優先順位に照らしながら順次ミニ児童会館を整備していく。</p> <p>対象学年の拡大・時間延長については、他に優先課題があること、施設の充実及び指導員の確保の必要性が生じること、放課後における子どもの過ごし方を勘案すると、現状の対象学年・開館時間が適当と判断している。</p>
3 民間児童育成会に関する意見	
<p>留守家庭の子と一般来館の子は、全く条件が違うので、一緒にできないことをわかってほしい。</p> <p>民間児童育成会への助成金を減らさないでほしい。</p> <p>民間児童育成会への助成金を充実させてほしい。</p> <p>働く親にとってプランは必要だが、質のよい保育体制が整っている民間学童保育にも同様のお金をかけることが必要だ。</p>	<p>民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成により支援を行っている。市を取り巻く財政状況が厳しい中、助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努める。</p>

Ⅲ 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

1 プラン(案)全般に関する意見

№	意見の概要	札幌市の考え方
1	児童会館とミニ児童会館の違いや、児童クラブの位置づけ、利用の仕組みがわかりにくかったので、その辺りのPRをもっとわかりやすくしてほしい。	市民の皆様によりわかりやすい説明や資料づくりに努めます。
2	市は留守家庭の子どもの居場所を真剣に考えているのか。児童クラブでは子どもの放課後は保障されず親も安心して仕事ができない。子どもの成長を真剣に考え施策にあたってほしい。	児童クラブは、すべての児童の健全育成を図る中で、留守家庭児童に一定の配慮をしており、国の放課後子どもプランに沿った対応をしているものと認識しています。今後も保護者の方々が安心して働くことができるよう、事業内容の充実に努めます。
3	プランには「子どもの居場所」という表現が多いが、ただ作れば良いというものではない。授業に引き続き校舎で過ごすことが居場所作りだとするのはいかなるものか。一体的、包括的、連携という言葉も一見良く見えるがとても危険に思える。放課後児童クラブは児童一人ひとりに細やかな対応が必要な生活の場である。遊び場を求めて児童会館やミニ児童会館を利用する子どもと一体化すること自体が差別ではないか。放課後児童クラブが既に設置されている地域にはミニ児童会館の設置を急ぐことのないよう配慮してほしい。	子どもたちの安全・安心な放課後の居場所として、小学校の余裕教室等を活用したミニ児童会館は有効であると認識しており、本市の総合的な放課後対策では、児童クラブに登録している子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としています。 また、すべての児童の放課後の居場所を考える上で、民間児童育成会が既にある地域においても、必要性が高いと判断した場合は、順次ミニ児童会館を整備していきます。
4	市のプランは現状を肯定し、看板を変えただけで、新たなプランと言えない。このような内容でパブコメをする必要があるのか。子どもが小学校にあがると、保育園のように安心して働けないから仕事をやめる親が多い。ミニ児童会館を見て窮屈でかわいそうという親もいる。プランの「一体的」というのは都合のいい言葉だが、全児童にも留守家庭児童にも中途半端ではないか。子どもの生活実態や家庭の状況を捉え、どのような支援が必要かなどの視点が欠けている。あいまいで不十分なプランだ。	札幌市がこれまで実施してきた児童会館(児童クラブ)事業は、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも分け隔てなく健全育成する中で、留守家庭児童に一定の配慮をするものです。これは、国の放課後子どもプランにおいて、留守家庭児童を対象とした放課後児童健全育成事業と、すべての児童を対象とした放課後子ども教室推進事業とを一体的あるいは連携して実施することとされているものに一致しています。 今後は、引き続きこの事業を継続しながら、より一層の内容の充実に努めます。
5	国の放課後子どもプランと市のプランは言葉では同じように説明しているが、単に児童会館事業をあてはめているだけ。市の留守家庭児童への配慮が本当に子どもへの配慮なのか。子どもたちは児童会館の指導員は専任指導員とは思っていない(遊び相手)。国の放課後事業とはその点だけでも違う。市は補助金をもらう限り国のガイドラインに従うべき。	
6	全児童対策と留守家庭児童対策は全く別物であるという認識でプランを進めてもらいたい。無料で利用できる児童クラブと高額な民間育成会とを足して2で割れないものか。保育園のように収入に応じた保育料を払うようにしてはどうか。児童クラブはその内容が充実されるよう根本から考え直してもらいたい。	
7	現状案では児童会館やミニ児童会館を利用する家庭のみが対象となっている感じがする。一般利用の直接来館、児童クラブの対象学年の拡大(4年生まで)、時間延長(朝8時から)を望む。地域の中・高校生、お年寄りの参加を希望する。	より多くの方々に児童会館、ミニ児童会館をご利用いただけるよう、地域の方の参画なども含め、事業の内容充実に努めていきます。 児童クラブの対象学年拡大については、すべての小学校区に放課後の居場所を確保するという優先課題があること、施設の充実や指導員の確保の必要性が生じることから、これまでどおり小学校低学年を対象とすることが妥当であると考えています。 また、開館時間の延長については、指導員の確保の必要性が生じることや、児童の放課後における過ごし方を勘案すると、現状の8時45分から18時00分までが適当であると考えています。 については、これ以降の「対象学年の拡大」及び「開館時間の延長」に対しても、同様の考え方になります。
8	この案は報告や解説が多く、何をどうするのが伝わらない。児童クラブの子も一般利用の子も分け隔てなくとしているが、有料にして専用の教室を設けるなどの差別化は必要ではないか。また、児童クラブ登録対象を6年生まで拡大すべきではないか。	児童クラブ登録児童においては、一般利用の児童と分け隔てなく健全育成を行っていますが、出欠確認や連絡帳による保護者との連絡など、必要な一定の配慮をしています。 なお、対象学年の拡大については、前述の 7「札幌市の考え方」 印を参照してください。

№	意見の概要	札幌市の考え方
9	学習機会を提供するところがあるが、具体的に何をするのか。児童クラブの子どもも一般利用の子どもも、分け隔てなく育成することが、安心な居場所となるのか。広く浅くということが伝わるが、中途半端にならないことを望む。	学習機会の提供については、遊びの要素を取り入れた指導者マニュアルを作成し、児童会館等で活用する予定です。今回の市民の皆様からの様々なご意見を踏まえ、着実にプランを実行していきます。
10	児童会館で学びの提供（「（仮称）学習レシピ」による学びの提供）を行うことは、遊びの充実等の妨げになるので反対である。（学習図書は、個々の学習のきっかけが広がるので賛成である。）	児童会館では、活動のひとつとして学習レシピを活用し、遊びの要素を取り入れた学びに異年齢で取り組むこと、また自主的に学習しやすい環境づくりに取り組むこととしており、これまでの児童会館等での活動（遊び）の妨げになるようなものではありません。
11	学習レシピも良いが、宿題のある子は、児童会館に着いたらまず宿題を終え、更に勉強したい子は勉強し、遊びたい子は遊びができるようにしてほしい。宿題を後回しにすると、楽しい時間が減ってしまうと思う。	
12	現行のミニ児童会館ではスペースが狭い。これから増やすのであればもっと広いスペースを提供してほしい。地域の力を活用し、スタッフの質を向上させるなど、ソフトも充実させてほしい。また、学習より図書の充実や読書の楽しさを子どもに伝えてほしい。	ミニ児童会館では、可能な限り当該小学校の施設を活用することで、活動スペースを確保しており、今後とも小学校の理解と協力を得ながら、活動の充実に努めます。
13	児童クラブの学年の制限をなくして欲しい。児童会館だけで手狭であれば空き教室の利用・整備をし、財政面で厳しければ利用料金を徴収し、職員は教職員退職者に短時間アルバイトを依頼するとよい。保護者の勤務形態も考慮し、年中無休、早朝～夜間まで利用可能とし、学校の集まり等でこのような意見があることを広く知ってほしい。	様々な留守家庭の状況から、多様なニーズがあることは認識していますが、ご提案の内容については、課題が多いと考えています。今後も、広く市民の皆様のご意見をお聞きし、事業内容の充実に努めます。
14	全児童育成と留守家庭児童対策とは全く違う要素。留守家庭児童には専任の指導員や、指導員と親との密接な関係、また子どもが安心してできるスペースも必要である。長年の実績のある共同学童保育所の指導員のノウハウを活用せず、共同学童保育所をつぶすようなミニ児童会館開設には疑問をもつ。また、3年生までの施策では高学年の居場所がなくなっているのが現状。習い事ができない子どもなどをどのようにすくっていくのか。	すべての児童の放課後の居場所を確保するため、ミニ児童会館の整備は有効なものと考えています。ミニ児童会館については、4年生以上の児童も一度帰宅せずに直接来館できますので、高学年児童の居場所としても十分対応可能と考えています。
15	プランには賛成だが、高学年の直接来館への対応、自転車での来館児童に対する安全対策についてどう考えているのか。中・高校生利用に際しては付近の公園にたむろし、近隣住民も迷惑しているようだが、パトロール等の対策は考えているのか。	来館時の交通安全等につきましては、来館児童に対し注意を促すとともに、家庭や地域などと連携を取りながら、安全対策に努めていきたいと考えています。なお、対象学年の拡大（高学年の直接来館）については、前述の「7 札幌市の考え方」を参照してください。
16	児童会館施策は全国に誇れると思うが、児童会館をより良いものにするには職員数が足りない。ミニ児童会館は賛成できない。授業の延長で学校内にいることは賛成できない。一般利用の子どもと分け隔てなくが必ずしも平等ではない。居場所は単に身を置いて外敵から身を守る所ではなく、安心して安らげ成長している場所であるべきではない。プランの数的目標はわかったが内容が見えない。ミニ児童会館の0.5教室が専用室となるのかははっきりしないままプランが策定されて良いのか。ミニ児童会館は廃止して児童会館を建設してほしい。	ミニ児童会館につきましても、児童会館と同様、多くの市民に信頼される放課後の居場所として位置づけられていると認識しています。今後も、児童にとってより一層居心地の良い場所となるよう充実に努めます。
17	民間への助成を減らすのではなく実態に見合った助成と、全児童だけでなく留守家庭児童を守るプランも充実させるよう検討して欲しい。	
18	すべての子どもたちが安全で安心して過ごすことができる放課後の居場所づくりとして、民間の学童保育所への補助を健全な経営ができるような額にし、地域の人たちによる居場所づくり活動への助成、フリースペースの確保、自己の責任で自由に遊ぶことのできるプレーパークの整備、学校を地域に開放すること等により、幅広い年齢層との関わりを経験でき地域の子育て力を復活させるようにする。	民間児童育成会に対しては、市の財政状況が厳しい中、適正で安定した助成を継続していきたいと考えています。学校や地域、家庭と連携し、すべての子どもたちの安全で安心な放課後の居場所づくりに努めます。
19	資生館小のように保育園・小学校・学童が一体化した施設、若しくは近くに集まっていれば親の不安も解消され働きやすくなる。学童と保育園が離れているため移動に時間がかかり四苦八苦している親が多い。宮の森小学校区にしっかりと公的学童保育施設を整備してほしい。	保護者の方々がより働きやすい環境づくりに努めていきます。宮の森小学校区には宮の森児童会館がありますが、施設の状況等から児童クラブを開設することが困難な状況です。

№	意見の概要	札幌市の考え方
20	無料で一定時間安全な施設で過ごす所と有料だが色々な体験ができる所と大きく2つに分かれると思う。有料にはそれだけの内容がある。民間学童はけっして親をがっかりさせないお金を無駄にさせない所だと思う。この2つを選択できる体制にして、どちらにも手厚く目をかけてほしい。	
21	子どもが（民間）児童クラブに入っている。プランの基本的考え方は理解するが、この施策が実施された場合、指導員の子どもに対する接し方が義務的・実務的にならないか不安である。児童会館は無料だが管理がない、民間児童クラブは親身になってくれるが費用が高いというように、どちらにも良い点・悪い点がある。現在運営しているクラブへの補助金制度を充実するのが良いと思う。非現実的な夢プランに時間をかけるより、現実的な案に対して早急な答えを出してほしい。	札幌市の留守家庭児童対策は、児童会館やミニ児童会館の児童クラブを基本としながら、多様な市民ニーズに応えることができるものとして、民間児童育成会に対して、一定の条件を設けた上で、運営費の助成を行っています。また、保護者の方々が安心して働くことができるよう、児童クラブの事業内容の充実に努めます。
22	子どもたちが行く場所がなくなっているのは事実だが、ただ児童会館やミニ児童会館を増やせば良いのか。児童会館には高学年はほとんどいない。よく考えて予算を使ってほしい。ただ空間を作るためだけのお金は使わないでほしい。もっと必要としている団体はいっぱいあると思う。	高学年の児童にとっても魅力ある児童会館となるよう努め、より効果的な整備と事業内容の充実に努めます。
23	放課後子どもプランには大いに期待する。このプランでは物質的側面が中心になっているようだが、子どもの成長を支える人的資源の確保についても施策の充実に図ってほしい。	
24	市のプランは素晴らしい事業だと思う。この事業が具体的に機能し、学校や家庭、地域が共に補完できれば放課後の生活が守られると思う。児童会館に集まる子どもの実態を見た場合、指導員の増員が必要である。	今後益々、児童会館が子どもたちにとって居心地の良い場となるよう、学校や家庭、地域との連携を図りながら、ボランティアの活用も含め、事業の充実に努めます。
25	市内には児童会館やミニ児童会館、地域で無料で活動できる施設がまだまだ必要。学校、家庭、地域の協力で子どもが健全に育つようプランを大いに進めるべきである。ミニ児童会館でも近隣の中・高校生をボランティアで活用してはどうか。お互いに得ることがあると思う。	
26	小学校区ごとに児童会館を確保するとのことだが、具体的にどの小学校に整備するか提示してほしい。子どもが来年小学校に入るが、その小学校にはミニ児童会館がない。民間だと月17,000円と高く家からも遠い。早くこの学校にもミニ児童会館ができれば良いと思っている。早めの検討をお願いしたい。	ミニ児童会館の整備については、児童数や余裕教室の状況、地域のニーズ等を総合的に勘案し、進めていくこととなりますが、現状では早期に整備校を特定することは困難な状況です。
27	主旨に共感した。特認校に通学しているため、放課後友達とあまり遊べないので、学校の友達と思い切り遊ばせてあげたい。藤の沢小（モデル事業）について興味を持った。豊かな放課後を過ごせるよう環境を整えてもらいたい。	市民の皆様の期待に応えられるよう、今後とも事業内容の充実に努めていきます。放課後子ども教室モデル事業についても、実施状況を検証し、他の地域での実施について検討していきたいと考えています。
28	校区ごとに児童会館若しくはミニ児童会館を早急に整備してほしい。民間育成会があることで、優先順位が下がるのは疑問。民間は会費負担がある。民間があることで優先順位を下げるのであれば、民間も無料化すべく補助等を考えるべき。それが平等ではないか。	限られた予算の中で効果的にミニ児童会館を整備していくには、優先順位は必要と考えていますが、余裕教室の状況や市民ニーズ等を総合的に勘案しながら、整備していきます。
29	保護者が安心して仕事を続けるにはなくてはならない施設だ。札幌市では支援が進んでいると思うが、足りない校区には、是非予算を投じてほしい。学習支援では、宿題に取り組む環境があれば充実すると思う。	民間児童育成会に対しては、市の財政状況が厳しい中、適正で安定した助成を行っていることを認識しています。
30	ミニ児童会館は絶対必要。市内にはまだまだ少ないので、早急に整備の必要がある。学習面でも子供同士で学べる方法を実施してもらいたい。	学習支援については、これまでも学校休業日等において、学習時間を設定するなどの取組を行っていますが、今後も充実に努めていきたいと考えています。
31	すべての子どもたちが安心して過ごせる放課後の居場所が必要。箱物だけでなく、内容等もよく知りたい。	学習機会の提供や様々な異年齢交流行事の充実に図り、地域や学校、家庭との連携強化に取り組むなど、市民の皆様の期待に応えられるよう、放課後子どもプランの推進に努めます。
32	主旨には賛同する。留守家庭では、帰宅後に学習させるのは難しく、少しでも学習時間を持たせたい。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
33	児童会館は高学年や中・高校生が遊びに来るところが良い。外でブラブラしているより、会館内で汗を流して生き生きしている感じがする。児童クラブの大規模化は必要な親がいる限り受け入れその中で工夫すれば良い。学校や地域との連携は是非取ってほしい。	
34	プランを見て、子どもたちを大事にもらえるのだと感じた。学校のクラスメイトだけでなく異学年の友達ができる場として児童会館は必要である。祝日も子どもたちが遊べる施設があれば良い。	
35	放課後の居場所があるということは、働く親にとってありがたい。家で一人で過ごすとは違った楽しい時間だと思う。学校区内、徒歩圏内にあることも良いことだと思う。	
36	子どもたちが犯罪や事故に巻き込まれない地域づくりが必要である。それには小学校区ごとに設けられている児童会館等は最適な場所である。十分な広さがあり、安全で安心して過ごせる児童会館でなければならない。	
37	子どもを育てていくには、人的環境・住環境は大切。児童会館にはこの2つがある。他都市も経験しているが、札幌市はすばらしい。是非、児童会館を継続してほしい。	
38	放課後の居場所がないと働く親にとっては不安。ミニ児童会館を作ることに賛成。短時間でも勉強に取り組める機会を提供してくれるのは良い習慣づけになると思う。	
39	子どもが安心・安全に生活できるプランでとても良い。もっと多くの市民に周知すべき。	
40	きめ細かい配慮がされ、対策と方向性が示され、とても期待している。特に地域との係わり合いを取り入れたことに興味を持った。	学習機会の提供や様々な異年齢交流行事の充実を図り、地域や学校、家庭との連携強化に取り組むなど、市民の皆様の期待に応えられるよう、放課後子どもプランの推進に努めます。
41	現在のプランのままで、親として安心できる。	
42	働いている親にとって、ミニ児童会館が必要不可欠。ただ、スペースの狭さが気になる。遊び中心は良いことと思うが、少しでも学習的なことができれば更に良いと思う。	
43	働いている親にとって児童会館、ミニ児童会館は必要。このプラン案は良いことだと思う。	
44	自分の地域には、児童会館やミニ児童会館があり放課後の居場所が充実しているようだ。充実しているからこそ、安心して働けると思う。一層の充実を望む。	
45	児童会館は、留守家庭の子にとっても、一般利用の子にとっても放課後の居場所として貴重な役割を果たしている。これからもさらに推進してもらいたい。	
46	プランの基本理念に賛同する。異年齢交流や自然体験や文化体験などの機会の充実を望む。	
47	このプランで十分問題ないと思う。どうぞこのまま子どもたちが安心して過ごせる場所であってほしい。今後は是非利用したい。	
48	孫ができてから、児童会館が身近に感じられる。国の宝である子どもたちの育成に携わっている関係者に敬意を表す。子どもの育つ環境整備を望む。	
49	プランに賛同する。これからは、学校・児童会館・家庭が協力し合って子どもたちが健やかに育つ環境を作る必要がある。	
50	以前児童会館を利用し、今は民間学童保育を利用している。現在の社会状況では、子どもを守るためには児童会館は必要不可欠。民間はお金がかかり、児童会館は無料だが、有料にしても良いのではないか。指導員の待遇改善など、根本的なものも含め存続と発展を望む。	現時点では、児童クラブの有料化（一部実費負担分は除く）は考えていません。

No	意見の概要	札幌市の考え方
51	とても良いプランだと思う。児童クラブは保育園のように「預ける」所ではないかもしれないが、もう少し時間が延長されるとありがたい。	保護者の方々がより安心して働くことができるようプランの推進に努めます。 なお、開館時間の延長については、前述の 7「札幌市の考え方」 印を参照してください。
52	子どもが病気のときでも預かってくれる事業も考えてはどうか。	
53	児童会館でこのような事業をするのは良いことだと思う。遊び場が減っているので児童会館事業が充実することは良いこと。ただ、指導員の人数は増えるのか。	限られた予算の中で、適切な人員配置を行いながら、事業の充実に努めます。
54	プラン案は留守家庭でない子どもも対象にしておりすばらしい。是非すべての案を実施してもらいたい。具体的に利用者が何を望んでいるか広く拾い上げ、地域差なども考慮してほしい。地域の力を活用すれば実現することも増えるのではないか。ミニ児童会館は一般来館の子どもも直接来館可能なので、児童会館でもそれができれば4年生以上でも安心できる。	関係機関と連携を取りながら、放課後子どもプランの推進に努めます。また、児童会館において、一度帰宅せず直接来館することについては、現在のところ困難な状況であると考えています。
55	プランは働く親にとってとても大切。もっと学校や地域に児童会館の存在・役割を知ってもらいたい。	より多くの方々に児童会館、ミニ児童会館をご理解・ご利用いただけるよう、一層のPRをしていきます。 なお、児童クラブの対象学年拡大については、前述の 7「札幌市の考え方」 印を参照してください。
56	このプランには賛成。児童会館、ミニ児童会館が「全ての児童が利用できる」との認知度が低いと思う。児童クラブの対象年齢引き上げを望む。一人っ子が多い中、異年齢交流ができる児童会館等の施設は貴重。	
57	ミニ児童会館を利用しているが、共働き家庭にはありがたく感謝している。異年齢の遊びなどNPO活動の例を参考にしてほしい。留守家庭だけでなく全員の利用ができることを望む。	
58	子どもたちは児童会館でのクラブ活動に目標をもって頑張っているようだ。クラブ活動の内容が普段児童会館に來ない子どもたちにも伝わる方法があれば良いと思う。	
59	放課後の子どもの遊び場である公園の安全確保を願う。民間の警備会社に委託し、頻繁に見回りをするなどの対策を望む。	地域や学校、家庭などと連携を取りながら、安全対策に努めていきたいと考えています。
60	今の児童会館機能に塾のような機能がプラスされると良いと思う。NPO教育支援協会の講師などが出向するスタイルを札幌でも進めてほしい。	プラン(案)では、遊びの要素を取り入れた学びの提供を行うこととしており、塾機能を持たせることまでは考えていません。
61	学校の中に児童会館があることを望む。が、距離的な問題がなければ、ミニ児童会館よりも今の児童会館が良いと思う。中高生や高齢者等いろいろな人と交流できる所はあまりないのではないか。	放課後子どもプランの推進に努め、異年齢や地域との交流等の充実に心がけていきます。
62	小学校区に1児童会館では少ないのではないか。留守家庭でもそうでない家庭でも、安心して過ごせる放課後の居場所作りには大変期待している。民間育成会への助成の充実は無理なのか。	民間児童育成会に対しては、多様な市民ニーズに応えるためにも、適正で安定した助成を継続して行っていきたいと考えています。
63	プランの概要には、高校生までの全ての子どもたちの施設として、と書かれているが、スペース的にも限界があり環境整備が必要と思われる。安全で安心に過ごす放課後の居場所づくりを実施するには親自身も一緒に考え協力する意識が必要だと、改めて考える良い機会となった。	順次、ミニ児童会館を整備することで、過密な児童会館の解消を図るとともに、学校や家庭、地域との連携を取りながら、事業の充実に努めます。
64	基本理念について全く異論なし。児童会館においては、高年齢の生徒・学生の参加推進により指導員の負担の軽減と異年齢交流による相互向上を望めるのではないか。	学校や家庭、地域との連携を図りながら、ボランティアの活用等、事業の充実に努めます。
65	ミニ児童会館に通っているが、学校が休みの日でもミニ児童会館に行くほど楽しみにしている。保育園児と小学生では、利用できなくなる施設や制度が多いことに驚いている。もっと、トータル的にサポートする体制作りを望む。時間延長や子どもの病気時の預け先、平常時のおやつやの導入など検討してほしい。子どもたちにとってよりよい環境になっていくことを望む。	児童の年齢等成長に応じた施策が必要であり、遊びや生活面での自立が進む時期の小学生に対する「健全育成」と、それ以前の年齢期の「保育」では、利用施設や制度の違いがあることについてご理解願います。 保護者の方々がより安心して働くことができるよう、プランの推進に努めていきたいと考えています。 なお、開館時間の延長については、前述の 7「札幌市の考え方」 印を参照してください。

No	意見の概要	札幌市の考え方
66	ミニ児童会館での学習時間の確保を強く希望。留守家庭、一般利用と分けないで、申込書などを提出することで、家庭との連携を密にする必要があるのでは。長期休業中の時間延長を早期に実現してほしい。	児童会館・ミニ児童会館では、留守家庭児童に一定の配慮をする中で、一般利用児童と分け隔てなく健全育成しています。 なお、時間延長については、前述の 7「札幌市の考え方」 印を参照してください。
(そのほかの意見等)		
67	まちづくりセンターや幼稚園、専門学校、大学などの機関で可能な限りの受け入れ要請をしていくべき。また高齢者等の地域住民に限らず、専門学校や大学生に場所の提供も含めた協力依頼が必要。幼稚園バスの活用、スポーツクラブ等の企業参入、塾での預かり事業、総合型地域スポーツクラブの創設についても検討が必要。	
68	プランには子どもをどうやって育てるかの視点が欠けている。単に居場所を作るというのではなく、大人数で子どもを過ごさせることの意義等を考える必要がある。	
69	学習支援について、児童会館で取り組むには無理がある。児童会館に来る一部の子どもたちを対象にするより、学校の担任の先生からプリントを出すほうがすべての児童が対象になる。学校の先生が大変なのであれば、そちらに支援策を考えてあげてほしい。学校の先生と子どもが良い人間関係を築けば、勉強指導も生活指導もうまくいくと思う。	
70	親と子どもの橋渡しの存在や場所があるとありがたい。コミュニケーション不足となる親子間の隙間を埋めることができれば。	
71	賛成する。	
72	賛成する。	
73	内容に賛成	

2 児童会館・ミニ児童会館児童クラブに関する意見

No	意見の概要	札幌市の考え方
74	児童クラブも保育園同様時間延長や休日対応への取り組みが必要。	保護者の方々がより安心して働くことができるよう、プランの推進及び事業内容の充実に努めます。 なお、開館時間の延長については、前述の 7「札幌市の考え方」 印を参照してください。
75	共働き家庭は多い中、日中の説明会や就業時間内のお迎えなど、支援をするなら根本的にやり方をかえるべき。	
76	児童クラブの対象を6年生までに、日曜祝日も利用できるようにしてほしい。開館時間の延長、地域との連携行事の工夫をしてほしい。	
77	せめて8:30から18:30までなら助かる。働き続けるには児童会館の力が必要。指導員は優しく熱心なので安心して働ける。	
78	児童クラブの時間延長を望む。長期休業時などはキャンプやお泊り会等があればうれしい。	
79	小学生から高校生までの居場所づくりとしては児童会館の役割は大きい。安全面からも広さや指導員の人数を考慮する必要があると思う。	児童会館の役割を果たすとともに、限られたスペース・人員の中で、より安全で安心な施設となるよう努めます。
80	児童クラブに入っているが、人数が多くなり一般の子が利用しづらくなっているのでは。冬場は特に児童会館への来館はしづらくなると思う。学校や児童会館だけでなく、公園など地域全体が活性化され、大人たちが見守れるようになれば良い。	高校生までのすべての子どもたちが、より利用しやすい施設となるよう、一層地域と協力・連携していきたいと考えています。
81	民間の児童育成会の環境は望ましくなく、民間の児童育成会がある校区へのミニ児童会館整備優先順位が低くなるのが残念である。誰のためにミニ児童会館があるのか、民間にも市にも考えてほしい。	限られた予算の中で効果的にミニ児童会館を整備していくには、優先順位は必要と考えていますが、余裕教室の状況や市民ニーズ等も勘案しながら、順次整備していきます。
82	児童会館(ミニ)の存在はありがたく必要不可欠。現時点で望むことは、朝と夜の時間延長と6年生までの拡大です。	ミニ児童会館については、児童クラブの対象学年を過ぎた4年生以上の児童についても、一度帰宅せずに直接来館することが可能ですので、ご理解いただきたいと考えています。 なお、開館時間の延長については、前述の 7「札幌市の考え方」 印を参照してください。

№	意見の概要	札幌市の考え方
83	ミニ児童会館の時間延長やおやつ（有料・持参）、学校施設の借用拡大を望む。	おやつについては、学校休業日等において実施しています。学校の利用施設の拡大については、小学校の状況に応じて個々に対応していきたいと考えています。 なお、開館時間の延長については、前述の「札幌市の考え方」印を参照してください。
84	児童会館に世話になっているが、感謝している。学校や家庭では経験できないこともでき、留守でない家庭の子も利用してくれたら良いと思う。学校から児童会館までの送りだけでもしてくれと安心。	児童会館は、留守家庭の子どもだけでなく、すべての子どもたちが利用できる施設です。今後もより多くの子どもたちに利用していただけるよう、内容の充実・活動のPRに努めていきます。
85	指導員の配置人数を増やしてほしい。児童会館で色々なことを学び、親も安心して働ける。利用人数の多さに驚く。1名でも2名でも指導員を増やせないか検討してほしい。	指導員の配置については、限られた予算の中で、効果的かつ効果的に配置されているものと認識しています。
86	特に「学習」の時間を設けなくても色々な事が身についている。児童会館で過ごすようになり色々な遊びや読書もするようになった。安心して仕事ができ助かっている。	来館児童が様々な体験ができるよう、今後も事業内容の充実に努めます。
87	ミニ児童会館ができ非常に喜んでいる。民間学童保育では、児童会館は留守家庭の子が過ごす生活の場ではないということを目指しているが、そんなことはないと思う。留守家庭の子どもも十分な配慮のもと楽しく過ごせている事実などがもっと積極的に外に伝えられると良い。ただ残念なのは3年生までで限定されていることです。早期に6年生までの学年拡大を希望する。	市民の皆様の期待に応えられるよう、今後とも事業内容の充実を図ります。ミニ児童会館は4年生以上であっても一度帰宅せずに直接来館が可能ですので、ご理解をお願いします。
88	学校から児童会館が遠いと一人で留守番することになり心配である。1小学校に対し5分以内の場所に児童会館があると良い。児童会館での活動には、いろいろなものがあって子どもも喜んでいる。	
89	児童会館を利用しているが、児童会館が校区外のため気軽に行かせられない。学校の中に児童会館があると良い。	
90	児童会館が少ないのではないかと感じる。会館があっても人数的に狭いと感じる。学校を活用するミニ児童会館の推進も望む。お金のかからない居場所をもっと増やしてほしい。	児童会館整備については、1中学校区1館を基本としていますので、整備を終えています。ミニ児童会館については、児童会館やミニ児童会館のない校区、児童会館があっても遠くて利用しづらい校区について、優先順位に照らしながら順次整備し、放課後の居場所を確保していきます。
91	自分は児童会館が近くにあり良かったが、児童会館がない地域の人は大変だと思う。小学校区ごとの児童クラブ整備は早急に進めてもらいたい。	
92	小学校区内に児童会館も地区センターもないので遊び場がない。学校の空き教室やまちづくりセンターなどを開放してくれると助かる。高いお金をだして民間クラブに行っている人も助かるのではないかと。	
93	6年生の子どもは1年生のときからミニ児童会館に行っている。ミニ児童会館は子どもにとっての憩いの場だ。ミニ児童会館が増えたと良い。軽度の自閉症だが、ミニ児童会館のおかげでコミュニケーションが取れるようになった。	
94	安心して遊べる場所が少ない中で、ミニ児童会館は助かる。毎日楽しく通っている子どもを見ると、ミニ児童会館があって本当に良かったと思う。	今後とも、多くの児童にとって過ごしやすい放課後の居場所となるよう、事業内容の充実に努めます。
95	主旨には賛同。児童会館を利用しているが、児童クラブは安心して働くために必要。	
96	子どももいつも楽しく過ごしており安心している。これからも児童会館が整備されることにより、たくさんの家庭が安心して仕事をしていけることと思う。	
97	賛同する。帯広から引っ越してきて、ミニ児童会館に感動している。現在、利用できない地域もあるため、引き続き整備を願う。	
98	少子化ではあるが、働く親は少なくない。小学校から遠く離れた児童会館で困っている。学校内児童会館を増やしてほしい。	児童会館やミニ児童会館のない校区、児童会館があっても遠くて利用しづらい校区について、優先順位に照らしながら順次ミニ児童会館を整備していきます。
99	1～3年生が安心して通える範囲に児童会館があるように早くミニ児童会館の全校開設を急いでほしい。越境して児童会館に通っている子、家計が苦しく民間学童を利用できない人のためにも早急をお願いしたい。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
100	児童会館があると、体を動かす機会ができて助かる。友達づくりでも重要な役割を果たしている。家が遠い子どもや利用数の多い児童会館もあり、もっと増えればいいと思う。	児童会館やミニ児童会館のない校区、児童会館があっても遠くて利用しづらい校区について、優先順位に照らしながら順次ミニ児童会館を整備していきます。
101	基本理念のすべての子どもたちの居場所づくりはすばらしい。小学校ごとに居場所を確保する。児童会館などの事業内容を良くする。この目標を達成できるよう推進してもらいたい。	
102	ミニ児童会館を利用しているが、学校内にあるので、自宅が遠い近いに関係なく利用できるのが非常に便利である。安心して働ける。ミニ児童会館ができてとても良かった。	
103	児童クラブでない子にとっても有用な居場所である児童会館となるよう、学校と連携したPRを行ってほしい。	
104	児童会館では連絡帳を通して日々の様子を知ることができ、心身に必要な内容にも配慮してくれている。守ってくれる人がいることで心の支えになっている。	
105	子どもを預けている児童会館は、安心して仕事ができる良い施設である。地域ぐるみの取り組みもすばらしく感謝している。このような施設をもっと増やしてほしい。	
106	児童会館があり、安心して働くことができる。親の悩み事も相談にのってくれ、とても助けられた。お年寄りとの交流など、良い取り組みをしている。	
107	児童会館を利用しているが、来館数が多い中、一人ひとりに目配り気配りしてくれる。これからも児童クラブに入会させたい。	
108	児童会館に通わせているが、安心して仕事ができる。多くの子どもたちが一緒になって遊ぶことのできる事は大切な社会勉強だ。親も指導員から仕事へのエールを送ってもらっている。親と同様に日々子どもと接してくれる児童会館に感謝。	
109	長期休業中など、来館中に勉強時間を設けることはとても効率的。子どもにとって居心地の良い場所だ。安心して子どもを預けられる。	
110	児童会館の指導員はとても良くしてくれる。課題への取り組みも十分だと思う。行事を通じた異年齢交流も多彩です。親代わりになってくれ安心してほしい。	
111	児童会館と学校との連携がとれていて安心できる。遊びだけでなく勉強タイムもあり、メリハリあってとても良い。多くの子どもたちが集う中で成長できる。	
112	児童会館にはとても世話になっている。もし児童会館がなかったら、自分の社会復帰もなかったと思うと非常に感謝している。	
113	保育園出身の子どもは、体力をもてあましており、児童会館はそれを解消できる一番の場所。親も安心だし、子どもも児童会館を楽しみにしている。信頼関係はとても大切なので、人事異動の際は配慮してほしい。	
114	働く親として、プランに対し感謝する。児童会館で年齢の違う友達とまるく兄弟のように過ごしている環境と指導員らに感謝。	
115	働く親にとって児童クラブは必要。一般の子どもたちと遊ぶ場でもあり、年齢に関係なく遊べて成長できる場。	
116	児童会館に預けており、ありがたく思っている。もうひとつの家のような。自分が働いていなくても遊びに行かせたいと思う。	
117	児童会館児童クラブに子どもを預けてきた。とても感謝している。今後も地域の中で安全・安心に過ごせる放課後の居場所づくりを望む。	
118	児童会館に協力しているが、児童会館の指導員の子どもへの配慮はすばらしい。また、子どもたちと地域をつなげる手助けをしていることもありがたい。もっと多くの子どもたちに児童会館を知ってもらいたい。放課後の居場所は児童会館が一番だと思う。	

本市の総合的な放課後対策においては、児童クラブに登録している子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としています。

学習機会の提供や異年齢交流行事の充実、地域や学校、家庭との連携強化など、事業内容の充実を図るとともに、保護者の方々が安心して働くことができるよう、今後ともプランの推進に努めます。

№	意見の概要	札幌市の考え方
119	我が家にとって児童会館はなくてはならない施設。地域の子どもたちが子どもらしくいられる場を提供しているのが児童会館。児童会館の役割は益々重要になってくると思う。	<p data-bbox="845 1019 1444 1131">本市の総合的な放課後対策においては、児童クラブに登録している子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としています。</p> <p data-bbox="845 1131 1444 1243">学習機会の提供や異年齢交流行事の充実、地域や学校、家庭との連携強化など、事業内容の充実を図るとともに、保護者の方々が安心して働くことができるよう、今後ともプランの推進に努めます。</p>
120	働く親にとって児童会館は安心して助かっている。異年齢交流や体を使った遊びをさせたい。そういう場が必要。	
121	ミニ児童会館を利用しているが、一般の子と一緒に活動しとしても有意義。安心して遊ばせる場が少なくなってきたことから、児童会館利用が多くなってきていると思う。多くの子が利用しても安心して過ごせるスペースの確保や指導員の配置、そしてあまり大規模にならないことを望む。	
122	ミニ児童会館の中だけではなく、天気の良い日はグラウンドで遊ぶ機会を多くしてほしい。ただ、何よりも学校の中にミニ児童会館があるのがありがたい。	
123	児童クラブに入っており助かっている。家のようにやさしく迎えてくれるので楽しいと言っている。これからも地域と学校と家庭をつなぐ児童会館であってほしい。	
124	児童クラブに入っているいなくにかかわらず、学校の友達と、昔の公園のように一緒に遊べるのが魅力。人数が多くなり心配な面もあるが今後の発展に期待。	
125	働く親にとって児童会館は重要な施設。地域との交流の場として大きな役割を果たしている。このプランには賛成。	
126	児童会館に子どもを通わせているが、今でも十分だと思う。	
127	留守家庭の居場所の確保は充実してると思う。児童会館は、親にとってもなくてはならない場所になっている。	
128	地域から遊び場がなくなり、親にとってもミニ児童会館があることは大賛成。市のプラン大賛成。子どもたちの居場所をなくさないで。	
129	ミニ児童会館を利用しているが、子ども自身がミニに行きたいと言っている。今は公園が少なかったり、遊び場が危険だったりして、ミニ児童会館に通ってくれれば安心。プランに賛成。	
130	学校生活では友達が少ない子だが、ミニ児童会館では、異年齢の友達が多くいるようだ。児童会館・ミニ児童会館の自由来館は絶対必要。	
131	プランに賛成。学校内にミニ児童会館がないと大変。是非、放課後の居場所を増やしてほしい。	
132	ミニ児童会館は理想的。緊急時に直接来館できる対応を望む。	
133	児童会館では一般の子とも交流ができ、有意義に過ごす場として大切な居場所だ。	
134	(児童会館の)指導員に見守られ、勉強も遊びも楽しく過ごすことができている。	
135	各小学校にミニ児童会館ができれば一番良いと思う。居場所をつくることはとても大事だが、色々な面で大変なことがあるのではないかな。	
136	児童会館の閉館時間が30分でも遅ければ助かる。学校の近くに児童会館があると良い。	
137	学校から一番遠くに家があり、ミニ児童会館がありとても助かっている。各学校にあれば、保護者も安心だと思う。	
138	ミニ児童会館の取り組みや指導員に感謝している。児童会館のイベントに参加している子どもの成長を感じる。	
139	ミニ児童会館があるおかげで安心して過ごすことができる。働く親にとってなくてはならない場所、第二の我が家である。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
140	ミニ児童会館を利用している。毎日楽しいと通っている。親子の会話も児童会館が作ってくれていると言っても良い。もう少し、一つ一つの事柄に取り組めるような環境を作ってもらえると指導員にも余裕が出て更にすばらしい児童会館になるのでは。	<p>本市の総合的な放課後対策においては、児童クラブに登録している子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としています。</p> <p>学習機会の提供や異年齢交流行事の充実、地域や学校、家庭との連携強化など、事業内容の充実を図るとともに、保護者の方々が安心して働くことができるよう、今後ともプランの推進に努めます。</p>
141	児童会館に子どもを通わせているが、安心して預けていられる施設があることをありがたく思っている。	
142	ミニ児童会館があって本当に安心。学校内にあると、雨・風の強い日も安心。	
143	児童会館の利用で安心でき、安全面でも感謝している。	
144	放課後安心して預けられる施設があり感謝している。児童会館は欠かすことのできない存在。今後とも安全に過ごせる児童会館でありますように。	
145	転居と同時に入学で心配していたが、子どもは児童クラブを休むのが嫌だと言うまでになり、本当に感謝している。指導員のもと成長する子を見て、親としてこれ以上の喜びはない。	
146	児童会館では社会勉強にもなっていると思う。外遊びなどの工夫を望む。	
147	仕事をしているのでミニ児童会館がありがたい。学校の授業では体験できない遊び等も取り入れられており、親子行事も楽しみにしている。子どもの未来に必要なミニ児童会館だ。	<p>児童会館やミニ児童会館のない校区及び児童会館があっても遠くて利用しづらい校区について、優先順位に照らしながら順次ミニ児童会館を整備し、事業の充実を図ります。</p> <p>また、学習支援については、これまでの活動の弊害とならないよう配慮します。</p>
148	近くに児童会館があり助かっている。しかし、児童会館も民間施設もないところは子どもだけで留守番をさせていると思うと心配である。	
149	ミニ児童会館があることは、本当に恵まれた地域だと思う。学校単位で、低学年でも通える範囲で児童会館を整備されると良いと思う。	
150	子どもがミニ児童会館で楽しい日を過ごしていた。小学校校区を変更してまでミニ児童会館のある小学校に通う子もいるようだ。多くの小学校にミニ児童会館を設置してほしい。	
151	ミニ児童会館の事業は続けてもらいたい。	
152	児童会館が利用しづらい地域にもミニ児童会館が整備されればとても助かると思う。行事等から学ぶことが多く、現在の児童会館の活動を好ましく思っているが、学習支援の充実でそのような活動が減ると心配。放課後の学習は家庭で。	
153	児童会館は単に遊べる場所ではなく、他では体験できない達成感等を味わえる有意義な場所。一時期不登校になりかけた子どもの支えとなったのが児童会館だった。少しでも早く1小学校区1児童会館になるよう望む。学習レシビも児童会館らしさを失わない方針であればと思う。	
154	北海道は雪が降るので、児童会館、ミニ児童会館があると安心。児童会館には勉強を望んでいない。長期休業中の勉強タイム等で十分だと思う。児童会館の活動内容に適合した指導員配置を望む。保護者はもちろん、地域、学校でも児童会館を支えていく取組が必要。	<p>学習支援については、これまでの活動の弊害とならないよう配慮します。指導員については、研修等により資質の向上を図り、児童会館の諸活動の円滑な運営に努めます。</p>
155	児童会館の協力で、地域の子どもの健全育成は充実している。地域の人と子どもたちのふれあいには児童会館がなくてはならない。核家族化や女性の社会進出など、地域の様子からも児童会館は必要である。	<p>今後とも、多くの児童にとって過ごしやすい放課後の居場所となるよう、また地域との協力・連携を強化し、内容の充実に努めます。</p>
156	児童会館には赤ちゃんから70歳代の人まで関わっていて、人間関係が広がっていると感じる。児童会館と地域、学校、家庭が一緒になって育てていけることは理想的で良い。子どもの居場所としてだけでなく、多くの大人と接し学ぶことが大切。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
157	放課後に子どもが集まって遊ぶことが難しい今、ミニ児童会館で様々な行事などを体験することができるのはうれしい。安心して子どもを預けられる場所があるからこそ仕事が続けられる。こうした施設を増やすことで女性の社会進出も増え、子どもを事故や事件から守ることができると思う。	
158	行事に参加しているが、児童会館の子どもたちにはいつも感心させられる。親も共に理解を深め協力してくれれば、子どもたちももっと幸せを感じて育っていくのではないかと。今のままでも最高の仕事をしていると思う。	今後とも、多くの児童にとって過ごしやすい放課後の居場所となるよう、また地域との協力・連携を強化し、内容の充実に努めます。
159	留守の子と一般利用の子を一体的に育成する児童会館事業に賛同。異年齢集団での活動を通じて、少しずつ強く大きくなる児童の姿が見られる。学校や地域、家庭が健やかに安全に過ごすことができるプランとして自分も協力したい。	
160	学校内にミニ児童会館があることは安心。スペースのわりに来館児童が多いので、もっとスペースがあれば良いと思う。	
161	ミニ児童会館は教室からまっすぐ行けるという安心感には他にはないもの。ただ、毎日利用するクラブの子にとってみたら狭いのでは。図書室の利用や自習教室の整備をお願いしたい。	限られたスペース・人員の中で、より安全で過ごしやすい施設となるよう努めます。
162	児童会館では学年の別なく交流の場があるのが魅力。育児サロンの提供など、地域のコミュニティとして価値ある施設だ。	
163	児童会館の存在はとても助かる。子どもにとって有意義な居場所になっていると思う。ただ、高校生まで利用できるため、小さいうちは色々小さなトラブルがあった。	高校生までの児童の健全育成施設である児童会館が、地域の方々にとってもより役立つ施設となるよう、内容の充実に努めます。
164	児童会館、ミニ児童会館は親として安心できる場であるが、子どもにとっても安心・楽しいが一番だと思う。集団下校等の時には、クラブ員でなくても直接来館できるようにしてほしい。	集団下校時等の緊急時においては、児童クラブ員以外の児童の直接来館について、状況に応じた柔軟な対応をしています。
165	児童クラブの対象学年拡大を望む。行事は充実しているので、今後も自然体験、文化体験などを提供してほしい。	
166	ミニ児童会館を利用しているが、どうして3年生までしか入会できないのかわからない。犯罪も多く一人っ子も多いので、小学生のうちには預かってほしい。	ミニ児童会館については、児童クラブの対象学年を過ぎた4年生以上の児童についても、一度帰宅せずに直接来館することが可能ですので、ご理解をお願いします。なお、児童クラブの対象学年の拡大については、前述の「7」札幌市の考え方」印を参照してください。
167	冬場の交通状況や長期休業中に子どもを残して出勤するなどの状況があるので、時間延長を望む。平日のおやつ導入はできないのか。	平日のおやつについては、原則、導入は考えていません。なお、開館時間の延長については、前述の「7」札幌市の考え方」印を参照してください。
168	児童会館がありとても助かっている。長期休業中は学習できる時間帯もあれば良いと思うが、塾のようにならないようバランスよく取り組んでほしい。	
169	放課後だけでなく長期休業中も児童会館児童クラブは親にとって心強い。学習面でのサポートも期待している。	長期休業中等については、午前中に学習時間を設けるなど、学習へのきっかけづくりを行っており、今後も学習意欲を高めるような取り組みに努めます。
(そのほかの意見等)		
170	親としては、ミニ児童会館を通してクラスメイト以外の友達ができればよいと思っている。	
171	児童会館を利用している。放課後の子どもの過ごす環境をより良くするために施設の充実、指導員の増員、待遇改善を望む。	
172	夜間子どもが使うときは使用料を安くし、昼間に大人が使うときは使用料をもらってはどうか。	
173	児童会館では、他校の子どもたちとも交流ができているようだ。児童会館が学校から遠く、往復に心配な時期もあったので、児童会館と学校の連携をマニュアル化してはどうか。	
174	児童会館が遠くて利用できない人がいると聞いた。児童会館では体を使った遊びを学ぶことができるので、その地域の人にもこの場を提供すべき。	
175	安心して子どもを預け、仕事をしている。	

3 民間児童育成会に関する意見

No	意見の概要	札幌市の考え方
176	障害があり特学に通っている。放課後は民間の学童保育所で障害のない子どもと一緒に遊んでいる。とても貴重な場なのに保護者会費が高く市の助成金だけではやっていけない。児童クラブとの助成の差は納得できない。親や子の選択肢を増やすためにも市の助成は公平であるべき。	本市では、放課後の子どもの居場所における地域格差を解消するため、将来的にすべての小学校区に放課後の居場所を作ることを目標としており、現在は、順次ミニ児童会館の整備を進めています。また、民間児童育成会に対しては、多様な市民ニーズに応えるためにも、適正で安定した助成を継続していきたいと考えています。
177	放課後に低学年の子どもを1人で児童会館へ通わせるのはとても不安との意見が多数ある。安心して仕事ができる民間の学童保育所がたくさんできるといいと思う。	地域における子どもの放課後の安全確保については、保護者、地域及び行政が一体となって取り組む課題であると認識しています。総合的な放課後対策を実施する上で、引き続き関係者と連携を図りながら、安全で安心な居場所づくりに努めていきたいと考えています。
178	学童保育所は子育てを一緒に考え親の相談にも向き合ってくれる。全児童と留守家庭児童はまったく条件が違うので一緒ににはできないことをわかってほしい。	本市の総合的な放課後対策においては、児童クラブに登録している子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としています。 また、児童会館では定期的な懇談や日常的な情報交換を実施しており、職員と保護者が意見交換できる雰囲気づくりや、保護者同士の交流に配慮するよう努めています。
179	留守家庭の子どもと一般利用の子どもを一体的に育成することで、留守家庭の子どもの「生活の場」が損なわれるのではないかと。毎日継続的に「ただいま」と帰る第2の『家』が必要。民間活力の賜物である学童保育を是非守っていただきたい。	
180	児童会館・ミニ児童会館・児童クラブにおいて、遊びと生活の場があるのか、また、本当に子どもたちが望んでいる場所であるか疑問であり、札幌市の方針を見直してほしい。	本市の総合的な放課後対策においては、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも、分け隔てない指導を行っているところです。なお、児童クラブに登録している子どもに対しては一定の配慮を行うことで、「生活の場」としての機能が十分確保されるよう努めています。
181	子どもの状況は環境によりそれぞれであり、子どもの生活を長期的に見て、単なる「居場所」ではなく「生活する場所」として考えてほしい。児童クラブで良いかを見直してほしい。	
182	「場所」を提供する児童会館だけでは働く親にとっては不安。心の問題や子どもの孤独などの問題が多い今こそ子どもを見守る大人の目が必要。	
183	高学年にも保育が必要。縦横のつながりがよく、保育計画が整った民間学童保育所存続のために助成金削減はしないほしい。	
184	子どもが安心して放課後を過ごせる民間の学童保育は親にとっても貴重な場であり、是非助成をしてほしい。	
185	民間学童保育所への助成を増やしてほしい。高学年になって留守番ができて大人も必要。何かあったときに行ける居場所があると安心して働ける。	
186	民間学童保育所への助成金を増やして欲しい。細かい配慮があり、子ども同士で育ち合える環境である。	
187	民間の学童保育所への助成金を増やして欲しい、指導員が子どもたち1人1人のことを理解した上で関わってくれる。	
188	民間の学童保育への助成金を増やして欲しい。児童会館とは違い、子どもたちの個性を理解してくれている。	民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成という形式で運営の支援を行っています。現在の札幌市を取り巻く財政状況は非常に厳しいものがありますが、この助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努めます。
189	子どもと向き合ってくれる指導員がいる民間学童保育所への助成金を減らさないほしい。	
190	民間学童保育所は、おやつがあり同じ大人や仲間と一緒に思い切り外で遊べるのがよい。助成金は削減しないでほしい。	
191	民間学童保育所の指導員の生活が安定し、良い指導が受けられるよう助成金削減に反対する。	
192	個性を尊重し、自主性を大事にして子どもの成長に本心から付き合ってくれることは非常に大事。社会性を育む場でもある学童保育所の存続を願う。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
193	民間学童保育所への助成を減らさないでほしい。高学年になっても、大人の目があるところで安定して放課後生活ができるよう、公的援助をお願いしたい。	民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成という形式で運営の支援を行っています。現在の札幌市を取り巻く財政状況は非常に厳しいものがありますが、この助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努めます。
194	指導員の共済費は35万円から0に、通勤手当も月3,500円に減額された。指導員の仕事への認識や理解が低いのが残念。民間学童保育への助成金を減らさないでほしい。	
195	1、2年後には児童デイケアの対象が入学前の子どもに移行する。軽度発達障がいの子どもたちが放課後、対人関係を形成するためにも、個々人に対応してくれる民間学童を児童デイケアに替わる支援として位置づけることが重要。	
196	空き教室のない小学校の増改築を全額負担してミニ児童クラブを開設するより、民間に学童保育所新設のための補助金プランを提示し、官民一体の運営にしたほうがいい。	
197	例え無料で教室を開放してくれるミニ児童会館があったとしても、子どもを預けようとは思わない。外にも遊びに行けずに、ただ時間をつぶすだけが子どもにとってどれだけストレスか。児童会館にないことが学童保育にはある。そこは生活の場であり社会の縮図だ。無料がすべて良いと考えるのは早急すぎる。今ある学童保育がなくならないように充実することが先決。	
198	民間の育成会の助成を削らないでほしい。指導員の生活を保障できるだけの額に。障がい児への配慮をしっかりとしてほしい。すべての子どもたちの放課後を保障してほしい。	
199	わが子は学童に行っています。子どもは元気に遊び、安心して仕事ができる。しかし、市の助成金が減り負担が増えている。学童の良さと厳しさを理解してほしい。	
200	子どもを児童会館に入れるか学童保育に入れるか悩んだが、活動内容や指導員の温かみを知り学童保育に入所させても満足している。助成金を減らさず学童保育を守ってほしい。	
201	子どもは国の宝。子どもにかけるお金は無駄にできない。指導員の待遇改善につながる助成金の増額を求める。	
202	民間の指導員を25年間している。民間の活動は留守家庭児童にはなくてはならないもの。今回の助成金削減で閉所に追い込まれる民間学童保育が増える。民間への助成金をもっと増やしてほしい。	
203	安心して生活できる学童保育をこれからも運営していくために、助成金の減額をしない、指導員の身分保証につながる共済費の確保、家賃の補助、4年生以上を助成対象とする等を望む。このままでは学童保育所の存続が危ぶまれる。国の方針のほうが進んでいるのではないか。	
204	放課後、学童保育で遊び勉強しながら過ごすことは、親にとって安心して預けられる場所。子どもが6年間このような施設で生活できることを願う。	
205	放課後の子どもの居場所を考えれば児童会館やミニ児童会館は必要だが、わが子は民間学童に通わせている。プランの中に民間を支援する内容を盛り込んでほしい。ミニ児の新設等で民間の学童がつぶれ生活の場を失っている子どももいる。	
206	二人の子どもが6年間学童保育所にお世話になり、安心して働くことができた。学童保育所に通わせて良かったと思う。学童保育所は第二の我が家です。児童会館・ミニ児童会館の充実とともに民間保育所に対しても補助金の増額または廃所にならない配慮を望む。	
207	娘が民間の育成会で放課後を過ごしている。お金がかかることで多少迷いもあったが、保育の仕方に共感し安心して任せている。指導員に色々聞けたり相談もできるので助かる。お金には代えられないものを得られる場所だ。	

№	意見の概要	札幌市の考え方	
208	民間の児童育成会に世話になっている。児童会館は無料だが子どもの居場所としては不満。たくさんの兄弟、保護者、指導員が大きな家族のように思えて心強い。15,000円は厳しいけど、お金の代えられない安心・安全がある。	民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成という形式で運営の支援を行っています。現在の札幌市を取り巻く財政状況は非常に厳しいものがありますが、この助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努めます。	
209	児童会館に預けようと思ったが、放ったらかしのイメージが強く、アットホームな学童保育を選んだ。色々なことにチャレンジさせ、上の子が下の子の面倒を見るスタイル。児童会館にはない良さがたくさんある。子どもを安心して預けられる場所をもっと増やすべき。男女平等であるという事をもっと大切にしてもらいたい。		
210	長男が民間学童保育所に通っているが、縦や横のつながりができて本人のためにも良いと思う。児童会館と違い高学年になっても通うことができ親としても安心。児童会館（ミニ児）ばかりでなく民間学童の良さをもっと理解してもらいたい。		
211	子どもを民間学童保育所に通わせている。児童会館の内容が安心できるものではなかった。無料だからしょうがないというのは大人の意見。子どもが子どもらしく過ごすことができるような場所を作ってほしい。全児童対策も必要だが、ただ入れるワケだけではプランに掲げる内容にはならないのでは。民間学童保育の助成金を減らさないで。		
212	民間の学童保育は児童会館と違い専任の指導員が子どもをしっかり見ている。しかし助成金がカットされ父母の負担となっている。子どもの成長を考えるとこのような施設が重要なのに市は何を考えているのか。次の世代の親も安心して働けるよう民間への助成金を充実してほしい。		
213	19時まで延長可能な民間学童保育所には助けられています。異年齢の友人もでき、親同士のつながりもできる。		
214	民間学童保育所は、19時まで預かってくれ、学校が終わってそのまま行ってくれるので安心して仕事ができる。		
215	民間学童保育所は、休校日や学級閉鎖にも対応してくれ、帰宅後の家庭に代わる場として子どもたち1人1人の様子にも細かく対応してくれ助かる。必要な施設として助成金を増やしてほしい。		
216	民間学童保育所は、おやつが出てありがたい。指導員がそばにいてくれて、親だけではわからない子どもの様子や気持ちを理解してくれ、子どもも安心・信頼している。		
217	ミニ児童会館にはない指導員の子どもに対する保育指導内容等が必要。民間学童保育では縦割り保育が生きている。共働き家庭にとって学童はなくてはならないもの。		
218	民間学童保育所は、専任の指導員がいて子どもが心の面でも安定できる居場所です。		子どもの情緒の安定に配慮した指導員の配置は、放課後児童健全育成事業を実施する上で必要であると考えており、児童会館においても、児童クラブに登録している子どもに係わる業務を主に担当する指導員を配置しているところ です。
219	児童会館を見学し話を聞いたが心もとない部分が多々あり不安を感じた。子どもへの関わりが強いことや、地域とのつながりの面から民間の学童は安心感がある。		放課後児童健全育成事業を実施する上で、適切な子どもへの関わりや、地域とのつながりは必要不可欠であると考えており、児童会館においても、児童クラブ担当指導員を配置するほか、児童会館すべての職員による、きめ細かな目配りを行うことや、運営に地域の声を反映できるよう努めます。
220	児童会館は誰でも出入り自由なので対応に不安がある。民間は専任の先生がいるので安心。		
221	児童会館は（専任）指導員がいない、春休み等の開館時間が親の始業時間より遅い等の不安が多い。子どもを生む環境だけではなく健全な教育のために学童保育も充実させてほしい。		

№	意見の概要	札幌市の考え方
222	<p>共同学童保育のある校区にミニ児をつくるのは納得できない。行政には留守家庭の児童の放課後の生活には何が必要かを再考してもらいたい。</p>	<p>ミニ児童会館の整備については、学校の児童数が一定規模以上であり、校区内に児童会館も民間児童育成会もない校区を優先的に進めています。放課後の居場所づくりにおける、行政サービスの地域格差解消のためにも、今後は民間児童育成会のある校区においても、整備条件が整い次第、順次整備を進めていきます。</p>
223	<p>児童会館より学童保育を選んだ。子どもを預けるには家庭の代わりとなる温かさが必要。児童会館での3年生以下しかみないというのはどのような基準なのか。もしミニ児童会館を計画するのであれば民間学童のないところに限ってほしい。ここにミニ児を作ると今まで築いてきた学童の存続にかかわる。留守家庭児童のために民間学童に助成金を増やし、ミニ児は留守家庭以外の子が集う場としてあれば良いと思う。ミニ児と学童が共存できる方向で考えてほしい。</p>	<p>ミニ児童会館の整備については、学校の児童数が一定規模以上であり、校区内に児童会館も民間児童育成会もない校区を優先的に進めています。放課後の居場所づくりにおける、行政サービスの地域格差解消のためにも、今後は民間児童育成会のある校区においても、整備条件が整い次第、順次整備を進めていきます。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っており、同一校区にミニ児童会館が整備された場合においても、助成要件を満たす民間児童育成会には、継続して助成していきたいと考えています。</p>
224	<p>全児童対策としての児童会館では留守家庭の子どもに対する十分なケアができないと思い、越境して他地区の学童保育を利用している。児童会館があればいいというのではなく、小学生が安全に健やかに過ごせるように予算を組んでください。</p>	<p>児童会館では、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも、分け隔てない指導を行っているところです。なお、児童クラブに登録している子どもに対しては一定の配慮を行うことで、「生活の場」としての機能が十分確保されるよう努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
225	<p>児童会館に通わせようとしたが、館内の様子を見て、ここで良いのか疑問に思い、学童保育に通わせた。外遊びがあり、子どもも気に入って通っている。学童はとてもアットホームな感じでとても良いと思う。もっともっと学童を増やしてほしい。</p>	<p>児童会館では、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも、分け隔てない指導を行っているところです。なお、児童クラブに登録している子どもに対しては一定の配慮を行うことで、「生活の場」としての機能が十分確保されるよう努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
226	<p>根本的に一般の子と留守家庭の子とは放課後のあり方が違う。学童の先生は信頼できる母親的存在。皆で食べる愛情たっぷりの手作りおやつや様々な活動。そんな子どもたちの安心できる居場所が存続し続けることを願う。地域に根ざした学童こそ必要。</p>	<p>児童会館では、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも、分け隔てない指導を行っているところです。なお、児童クラブに登録している子どもに対しては一定の配慮を行うことで、「生活の場」としての機能が十分確保されるよう努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
227	<p>今子どもが通っている民間学童保育所は、勉強や遊び等を通して様々なことを教えてくれる。ミニ児童会館と違い16年生までみてくれる。学童保育の内容を知り、指導員が自立した生活ができるよう市の援助に努め、質の高い保育の提供を。体制の一本化のようなプランが正しいわけではない。</p>	<p>本市の総合的な放課後対策においては、放課後子ども教室事業と放課後児童健全育成事業を一体的に実施しており、学習支援の充実や生活の場の確保に努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
228	<p>放課後の居場所に学校の空き教室利用を案としていることに疑問や不安を感じる。学校という大きな箱に1日の半分以上を過ごすことを課して子どもたちは何を求めるのか。子ども2人を学童保育に通わせた経過があるが、学童保育に通う子どもは皆生き生きと成長している。このプランの主役である子どもの声は届いているのか。</p>	<p>本市の総合的な放課後対策においては、放課後子ども教室事業と放課後児童健全育成事業を一体的に実施しており、学習支援の充実や生活の場の確保に努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
229	<p>働く親にとってプランは必要不可欠。だが、学童保育所と違い、学校にそのまま残って過ごすのはどうか。学校生活の延長ということで開放感のない状態になるのではないか。昨今の状況を考えると、低学年のみならず高学年も、また質的にも良い保育体制を作っていくこと、その質を満たしている民間学童保育所にも同様のお金をかけることが必要。</p>	<p>本市の総合的な放課後対策においては、放課後子ども教室事業と放課後児童健全育成事業を一体的に実施しており、学習支援の充実や生活の場の確保に努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
230	<p>子どもの放課後の生活は親にとって心配のひとつ。学校の中で見てもらえるのも良いが、学童のようにのびのびと放課後を過ごせることが必要（学校の延長ではなく）。</p>	<p>本市の総合的な放課後対策においては、放課後子ども教室事業と放課後児童健全育成事業を一体的に実施しており、学習支援の充実や生活の場の確保に努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>

4 1～3以外の意見

№	意見の概要
231	指導員がしっかりしている事、親同士のつながりがあることが大事。
232	老人ホームや障がいを持つ方の施設訪問など積極的に行ってほしい。少子化だからこそお年寄りとのふれあいや尊敬の念等忘れないでほしいことを、子どもたちに感じさせてあげてほしい。
233	放課後の居場所に望むことは、本来家庭で教えるべきことを少し手伝ってほしいということ。働いているとなかなか教えてあげられない。例えば、地域の協力を得て、調理に取り組み、一人暮らしのお年寄りにご馳走するなどすれば、本人の励みになり、社会貢献の第一歩につながるのでは。
234	地域の年配の方の力を借りて、昔遊びを取り入れてはどうか。
235	継続的に個々人の観察をしたり、つながりを持つ大人に見ていてほしい。
236	一度家に帰ってから児童会館に行くには遠すぎるため、学校建設予定地（空き地）に町内会が運営できるような建物を造ってもらえないのか。
—	プラン(案)への意見募集を保育園の保護者に対して実施していないのは何故か。保育園の保護者がこのプランにとって一番重要なのではないか。まちづくりセンターは高齢者しかいないのに配布していて、保育園に配布していないのはおかしい。

札幌市放課後子どもプラン(案)に対する
ご意見の概要と札幌市の考え方

【お問い合わせ先】

札幌市子ども未来局子ども育成部子ども企画課

〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館3階

電話 011-211-2982 F A X 011-211-2943

E-mail kodomo.ikusei@city.sapporo.jp

ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/kodomo/ikusei/>

※ この資料は、上記ホームページにも掲載しています。